

参加費  
無料

令和7年度フェミサイド対策事業

# ネットで過熱する性差別 デジタル性暴力とフェミサイド

2025年 12月 20日 (土)

13時～16時 (受付 12時30分～)

会場:ヴィレステひえづ

(西伯郡日吉津村日吉津 930)

講師  
パネリスト

藤田 直哉さん (SF・文芸評論家、日本映画大学準教授)  
辻 麻梨子さん (報道機関「Tansa」ジャーナリスト)  
藤吉 航介さん (株式会社めぐ代表取締役)  
栗本 敦子さん (Facilitator's LABO 主宰) (順不同)

## ～プログラム～ (予定)

○講演 (藤田 直哉さん、辻 麻梨子さん)

13:10～14:30

○シンポジウム

14:40～16:00

主催:鳥取県・みーふあいゆー

【申し込みはこちら】

【連絡・問合せ】

Mail :femiside1220@yahoo.co.jp  
TEL:090-1330-9647(サワダ)



※当日参加も可能ですが、  
なるべくお申込みいただけますと幸いです。

※裏面もご覧ください

女性であることを理由とした殺人を「フェミサイド」といいます。  
日本でも報道をよく見ると、該当する事件が少なくありません。  
背景にあるのは性差別です。

いま、ネットの中では「女性叩き」コンテンツが盛り上がり、ミソジニー（女性嫌悪）が広がっています。「男らしさ」を煽る投稿も人気があり、その中にはしばしば「トキシック・マスキュリニティ」（有害な男らしさ）が含まれています。またAIなどの技術の進展はあらたな形のデジタル性暴力を生み出しています。最新の状況と背景の分析をふまえ、現状にどう向き合うべきかを考えます。

## 講師プロフィール

藤田 直哉

批評家、日本映画大学准教授。

1983年、札幌生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。

東京工業大学社会理工学研究科価値システム専攻修了

博士（学術）。著書に『虚構内存在』『シン・ゴジラ論』『新海誠論』『現代ネット政治=文化論』『攻殻機動隊論 新版\_2025』『ゲーム作家 小島秀夫論』（作品社）、『新世纪ゾンビ論』（筑摩書房）、『娯楽としての炎上』（南雲堂）、『シン・エヴァンゲリオン論』（河出書房新社）、『ゲームが教える世界の論点』（集英社）、『宮崎駿の「罪」と「祈り」』（blueprint）、共編著に『3.11の未来ー日本・SF・創造力』（作品社）、『地域アートー美学/制度/日本』（堀之内出版）、『東日本大震災後文学論』（南雲堂）などがある。朝日新聞にて「ネット方面見聞録」、晶文社WEBにて「フェミニズムでは救われない男たちのための男性学」連載中。



辻 麻梨子



1996年生まれ。早稲田大学在学中、立ち上げ前のワセダクロニクル（現 Tansa）に加わる。製薬マネーデータベースの制作や、インドネシアへの劣悪な石炭火力発電所の輸出を追ったシリーズ「石炭火力は止まらない」に取材協力。2019年～2022年は東洋経済の記者としても活動。2022年6月に Tansa の専業リポーターとなり、デジタル性暴力を報じるシリーズ「誰が私を拡散したのか」を連載中。2023年ジャーナリズムXアワード大賞、2024年放送文化基金賞・調査報道賞受賞。

藤吉 航介

株式会社めぐ代表取締役

1988年三重生まれ。外資系製薬会社、保育や就業・企業支援NPOを経て2019年に鳥取へ。人や組織の「間」で生まれる困りごとを解消することで、前を向いて働くことができる組織づくりに従事。「働く」を通じて、何度も前を向ける」機会をつくりたいと、2021年にオンラインアシスタント事業をスタート。二児の父。



栗本 敦子



Facilitator's LABO(えふらぼ)  
VAW研究会

市民団体の事務局職員を経て、現在はフリーランス。ワークショップ（参加型学習）のコミュニケーション（アサーション）、対立などをテーマとした研修や、プログラムづくり、ファシリテーター養成などを行う。一人ひとりが尊重され、力をいかす（エンパワーされる）ことができる場づくり、対等で素直な対話をとおして、持続可能によりよい未来に向けた社会への行動につながる学びをめざす。

